

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	大阪教育大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	オオサカキョウイクダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F127110107861
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	大阪府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	教育コラボレーション演習
	学部・研究科等名	教育学部教育協働学科
	担当教職員名・役職	吉原 孝・教育協働コーディネーター
	受講者数実績年度	令和4年度
	受講者数※キャリア形成支援活動参加者数	357
	受入企業等数	132
	受入企業等名	図書館・博物館、ビッグバン、少年自然の家、学習支援教室、子ども食堂、就学前教育・保育施設、学校、セレッソ大阪、地域の芸術祭、音楽・演劇ホールなど
	産学協議会の整理上の類型	3.タイプ3(汎用的能力活用型インターンシップ)
	キャリア形成支援活動の分類	5.他県をまたぐ広域でのキャリア形成支援活動 7.高学年(大学3年次～4年次程度)又は修士課程学生を対象としたキャリア形成支援活動 12.その他
上記以外のキャリア形成支援活動の分類(記述欄)	教育に関連する施設、機関やNPO法人等	
要素①	1-1.当該キャリア形成支援活動は、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	各演習先に対し学生の受入を依頼をする際、本演習は「地域の子どもたちへの教育や生活を直接的・間接的に支える様々な現場に本学の学生が赴き、年間30時間の教育協働学習(サービスラーニング)を行う」こと、加えて「この活動を通して、他者と協働しながら子供たちの健やかな成長をサポートするスキルを身に着け、社会の様々な場面でキーマンとなって広く教育を支援していくような人材の育成を目指す」という趣旨を十分理解していただき、活動内容を考慮していただいている。
要素②	2-1.当該キャリア形成支援活動を正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、当該取組の実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するキャリア形成支援活動の内容	3.当該キャリア形成支援活動は、専門教育科目として実施している 4.当該キャリア形成支援活動は、必修科目として実施している 7.当該キャリア形成支援活動は、授業期間中に実施している 8.当該キャリア形成支援活動は、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているキャリア形成支援活動の内容	
	2-3.当該キャリア形成支援活動を実施する年次	大学 学部3年 大学 学部4年
	2-4.当該キャリア形成支援活動で付与される単位数	大学 2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細	教育学部教育協働学科3～4年次を対象、専門教育科目として、原則として前年度の2月から当該年度の1月までの間に、30時間の活動を行い、2単位を付与する。

項目	確認事項	届出内容
要素③	3-1.インターンシップ等の就業体験の実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、キャリア形成支援活動の教育的効果が発揮されるよう就業体験実施期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 3.学生に対して、インターンシップ等の就業体験における成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのキャリア形成支援活動の実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
	3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ等の就業体験実施期間中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	事前指導Ⅰ（受講対象者全員に対して行う） ・「教育コラボレーション演習」の概要と意義に関する講義（20分） ・先輩からのメッセージ（20分） ・演習に係る申し込みから活動終了までの流れ（40分） 事前指導Ⅱ（受入先ごとの担当教職員から指導） ・受入先の特徴や事前に学んでおくべきこと、心構え等を指導 ・受入先担当者への連絡方法を伝える（学生自ら、受入先面談の日程調整をさせる） ・演習活動中の注意事項や、緊急時の連絡体制を再確認
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	事後指導（学生ごとの教育コラボレーション演習指導教員から） ・学生が用意した「演習前・演習後アンケート」、「出席表（活動日時を記録し受入先の確認署名）」、「活動日誌」を参照しながら、活動内容や活動を通して得られた気付きなどについて報告を受け、適宜指導
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	・必要に応じ、受入先担当教職員が演習活動中の受入先を訪問し、学生の活動の様子を視察するとともに、受入先の担当者に活動状況などを伺う。 ・演習活動中にトラブルが発生した場合は、受入先担当教職員と教育コラボレーション演習指導教員がとともに対処する。
要素④	4-1.キャリア形成支援活動の教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をキャリア形成支援活動の実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	事前アンケート（演習希望先を第3希望まで登録させる際に入力） ・教育コラボレーション演習で学びたいと思うことを複数選択、その他自由記述 事後アンケート（演習終了後入力） ・活動内容を複数選択、その他自由記述 ・演習を受けて、各項目ごとに該当するもの（そう思う・どちらかといえばそう思う・どちらかといえばそう思わない・思わない）を選択

項目	確認事項	届出内容
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のキャリア形成支援活動の実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	うち、就業体験の実施期間(5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	受入先の活動に合わせ、連続5日間(1日当たり6時間)という形態をはじめ、毎月第3土曜日3時間の活動(10か月間)や、子どもたちのキャンプの指導補助(2泊3日で30時間)、イベント準備のための不定期かつ長期間の活動など、多岐にわたる。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	ほとんどの演習受入先での活動は5日間以上であるが、受入先の活動により様々である。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	・受入先の要望等をお伺いするためのアンケートを実施 ・受入先担当教職員が適宜個別に受入先を訪問するなどし、趣旨を理解いただき活動内容などに工夫を凝らしていただいている。(例:島根県隠岐郡海士町教育委員会が実施する、地域の方々と連携しながら、子どもたちの教育や町おこしに関わる事業の企画・実施の補助を行う(一週間程度)が、学生の参画する個別事業などの検討段階から本学教員が参画し、演習効果の向上に資している。)
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://osaka-kyoiku.ac.jp/faculty/practice/collaboration.html
問い合わせ先	大学等名	大阪教育大学
	担当部署名	学務部教務課教育実践支援ルーム
	担当者役職名	教育協働コーディネーター
	担当者氏名	吉原 孝
	電話番号	072-978-4035
	メールアドレス	epsroom@cc.osaka-kyoiku.ac.jp